

わが社の運輸安全マネジメントの取り組み（令和4年度）

会社名：白金運輸株式会社 本社営業所	代表者名：代表取締役社長 海鋒 徹哉
--------------------	--------------------

<p>わが社の事故防止のための安全方針</p> <p>当社は、国内物流の根幹を成すトラック事業者として、輸送の安全確保が最も重要であることを自覚し、関係法令・規則の遵守を徹底し、絶えず輸送の安全性向上に努めるとともに、企業の社会的な責務を果たすことを第一の目標とする。</p> <p>社内への周知方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業所に安全方針を配布・掲示し周知徹底を図る。 2. 安全衛生推進会議等の機会を通じ周知徹底を図る。
<p>安全方針に基づく目標（令和4年4月1日～令和5年3月31日）</p> <p>事故発生率 対前年度事故発生率 35%改善（有責交通事故0件）</p> <p>運行事故：0.121%（概算値：9件/8,034件以下）</p> <p>作業事故：0.057%（概算値：0件/1,119件以下）</p> <p>目標達成のための計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コメンタリー運転とリスクアセスメント活動 ② 点呼における報告・連絡・相談の徹底 ③ 班会議等における危険予知訓練 ④ ドライブレコーダーによる不安全行動者への指導教育
<p>わが社における安全に関する情報交換方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点呼時における各種安全情報の聴取及び安全衛生委員会や班会議等の小集団活動の場で、運行上の危険箇所やヒヤリハットについて討議し情報の共有化を図る。 2. あらゆる広報媒体を活用し、安全に関する情報を掲示し周知徹底を図る。 3. 月次の安全衛生対策本部会議及び安全衛生委員会会議、班会議等で伝達と情報交換を行う。
<p>わが社の安全に関する反省事項（令和3年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故防止に必要な基本的安全動作を怠り事故を惹起している事例が殆どであった。 2. 過去の事故事例の教訓が活かされず類似事故が複数発生した。 3. 班会議等小集団活動における危険予知訓練の成果が実際の行動に活かされていない。
<p>反省事項に対する改善方法（令和4年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社内ルールを含めたコンプライアンスを徹底させ事故防止を図る。 2. 「三自の精神」及び「事故は自分も起こすもの」という意識の浸透を図る。 3. コメンタリー運転と指差呼称の実践の習慣化を図る。 4. 各個人の安全目標の掲示と過去の事故事例を教訓とする意識の浸透を図る。

わが社の安全に関する目標達成状況（令和3年度の結果）					
目 標	運行事故：0.045% 4件/8,390件以下	⇒	結果	0.187% 15件/8,034	未達
	作業事故：0.000% 0件/947件以下	⇒	結果	0.089% 1件/1,119	未達
※運行事故件数は、交通事故や貨物破損等を含む運行に関する全ての事故件数である。					
わが社の自動車事故報告規則第2条に規定する事故（令和3年度の結果）					
0件					
わが社の事故に関する情報（令和3年度の結果）					
<p>前年度発生しなかった作業事故が1件発生したほか、運行事故は前年度の5件から15件と3倍増加した。その中で、有責交通事故も2件発生した。</p> <p>各部署の事故が社内でも水平展開されているが、後退事故や冬型事故が複数発生している現状から、状況判断力を高め適切な行動による事故防止を図るためにも基本動作を徹底する必要がある。</p>					